

仕 様 書

カトウ全油圧式トラッククレーン

NK-70M-V-PJ 型

NK-70-V-PJ 型

\*\*\*\*\*  
\*  
\* パワージブ仕様 \*  
\*  
\*\*\*\*\*

## クレーン主要諸元

1. クレーン呼称	4.9tonトラッククレーン 7.0tonトラッククレーン
2. クレーン型式名称	カトウNK-70M-V-PJ 型全油圧式トラッククレーン カトウNK-70-V-PJ 型全油圧式トラッククレーン
3. 性能	
○クレーン容量	4.9 t×3.5 m 6.60 mブーム アウトリガ使用・・・NK-70M-V-PJ 7.0 t×2.5 m 6.60 mブーム アウトリガ使用・・・NK-70-V-PJ 4.9 t×3.5 m 11.45 mブーム アウトリガ使用 3.85 t×3.5 m 16.30 mブーム アウトリガ使用 1.25 t×8.0 m 6.60 mブーム～16.30 mブーム+ルースタシープ アウトリガ使用 1.25 t×8.2 m 11.45 mブーム+2.75 mジブ アウトリガ使用 1.25 t×6.4 m 16.30 mブーム+5.2 mジブ アウトリガ使用
○ブーム長さ	6.6 m (基本ブーム) 16.3 m (3段ブーム)
○ジブ長さ	5.2 m
○最大地上揚程	16.2 m (16.3 mブーム) 21.8 m (16.3 mブーム+5.2 mジブ)
○巻上ロープ速度	
主 巻	54 m/min(低速) 110 m/min(高速) 4層目
補 巻	44 m/min(低速) 90 m/min(高速) 2層目
○フック巻上速度	
主フック	13.5 m/min(低速) 27.5 m/min(高速) (4掛数 4層目)・・・NK-70M-V-PJ 9.0 m/min(低速) 18.3 m/min(高速) (6掛数 4層目)・・・NK-70-V-PJ
補フック	44 m/min(低速) 90 m/min(高速) (1掛数 2層目)
○ブーム伸し速度	9.7 m/29 sec
○ジブ伸し速度	14.55 m/29 sec
○ブーム起伏範囲	-6° ～80°
○ブーム上げ時間	-6° ～80°/20 sec
○旋回速度	2.5 rpm
4. 架装キャリア	
メ-カ名称 型式	三菱 P-FK415ED 日産ディーゼル P-CM87B 日野 P-FD161CD いすゞ P-FRR12DA

## 5. 油圧装置

オイルポンプ	3 連ギヤポンプ
巻上用オイルモータ	アキシアルプランシジャ型
旋回用オイルモータ	内接ギヤ型
コントロールバルブ	マルチプル自動復元式
シリンダ	高圧ダブルアクティング式
オイルリザーバ	120ℓ

## 6. 上部旋回体の装置及び構造

巻上装置	オイルモータ駆動平歯車減速式 (自動ブレーキ装置・自由降下装置付) 2軸2ドラム
旋回装置	オイルモータ駆動遊星歯車減速式
旋回サークル	ボールベアリング式
ブーム起伏装置	シリンダ直押式
ブーム伸縮装置	シリンダ及びワイヤロープ併用
ジブ伸縮装置	ピン差換式4段同時伸縮
アウトリガ装置	油圧垂直支持式 フロート、バーチカルシリンダ一体型
ワイヤロープ	
主巻用	6×Fi(29) I.W.R.C.(難燃性ワイヤロープ) φ10×95m.....NK-70M-v-PJ φ10×125m.....NK-70-v-PJ
補巻用	6×Fi(29) I.W.R.C.(難燃性ワイヤロープ) φ10×50m

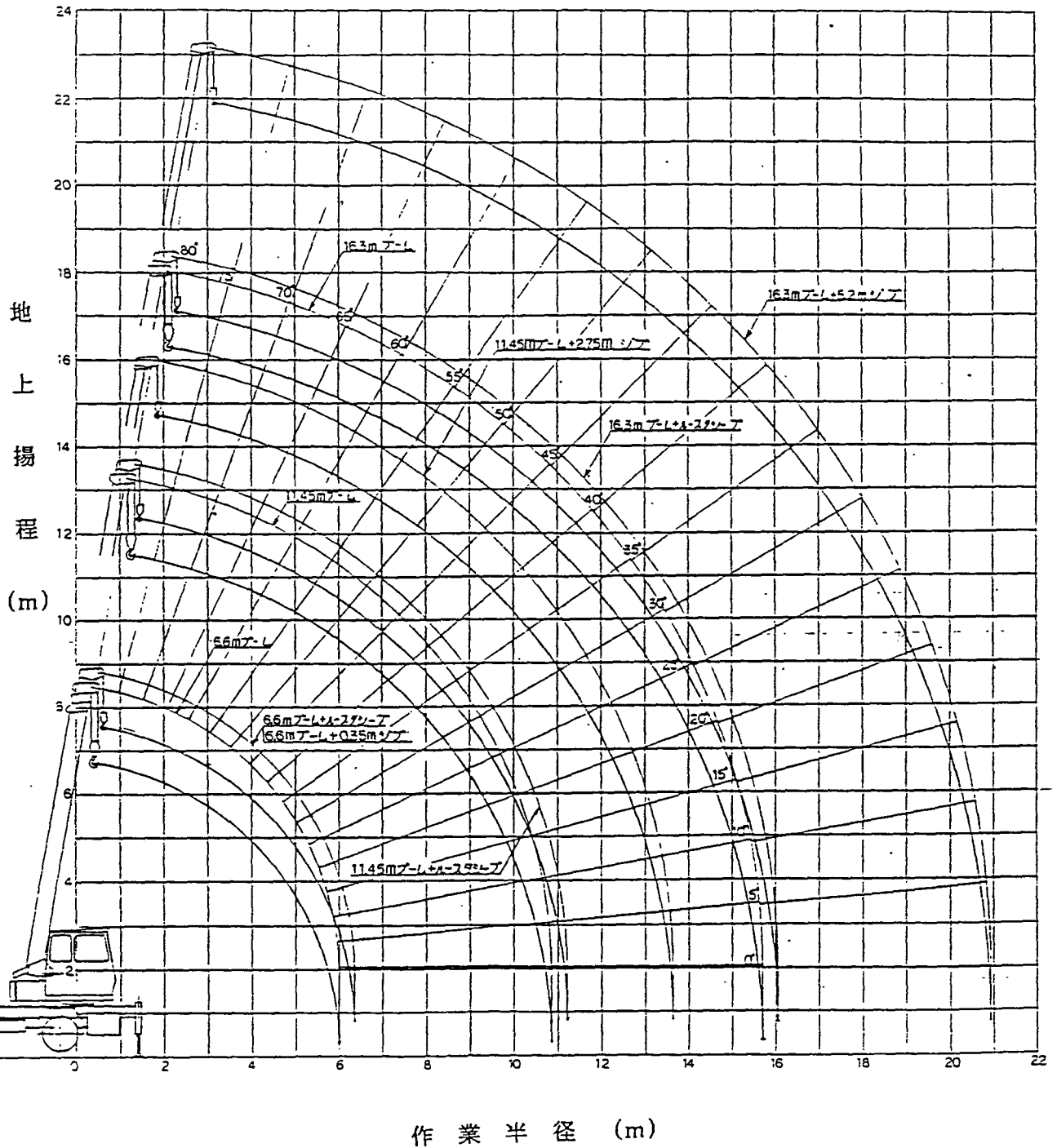
## 7. 安全装置

マイコン式ACS (全自動過負荷防止装置、音声警報装置付)、自動ブレーキ装置、油圧安全弁、アウトリガロック装置、ドラムホールド安全装置、ブーム自然降下防止装置、過巻防止装置、フロントジャッキ過負荷警報装置、角度指示器、旋回ブレーキ装置

## 8. 標準装置

クレーン運転室ヒータ、クレーン運転室ファン、クレーン運転室ラジオ

作業範囲図



【注】本図は主ジブ、補ジブのたわみを含んでいません。

■ NK-70M-V-PJ, NK-70-V-PJ 定格総荷重表(1)

(単位:ton)

アウトリガ最大張出+フロントジャッキ (全周)									
アウトリガ最大張出 (後方、側方)									
ノム長さ 作業半径(m)	ノム長さ				ノム+ジャ 長さ 作業半径(m)	ノム+ジャ 長さ			
	6.6m	11.45m	16.3m	6.6~16.3m +ルスタシーブ		6.6m +0.35m	11.45m +2.75m	16.3m +5.2m	
2.0	4.9(7.00)			1.25	2.0	1.25			
2.5	4.9(7.00)	4.90		1.25	3.0	1.25	1.25		
3.0	4.9(6.10)	4.90	3.85	1.25	4.0	1.25	1.25		
3.5	4.9(5.45)	4.90	3.85	1.25	5.0	1.25	1.25	1.25	
4.0	4.55	4.35	3.45	1.25	6.4	1.25	1.25	1.25	
4.5	3.75	3.85	3.10	1.25	7.0		1.25	1.18	
5.0	3.15	3.25	2.80	1.25	8.2		1.25	1.05	
5.5	2.70	2.80	2.55	1.25	9.0		1.16	0.97	
6.0	2.35	2.45	2.40	1.25	10.5		1.03	0.84	
7.0		1.90	1.95	1.25	12.0		0.78	0.74	
8.0		1.55	1.55	1.25	13.7		0.57	0.63	
9.0		1.25	1.30	1.17	15.0			0.52	
10.0		1.05	1.05	0.97	17.0			0.37	
10.8		0.90	0.90	0.82	19.0			0.25	
12.0			0.70	0.62	20.9			0.16	
13.0			0.60	0.52	標準フック	1.25tフック			
14.0			0.50	0.42	フック重量	20kg			
15.0			0.40	0.32	巻掛本数	1			
15.5			0.35	0.27					
標準フック	4.9tフック(7.0tフック)			1.25tフック					
フック重量	65kg			20kg					
巻掛本数	4	(6)		1					

(注) ( )内数値はNK-70-v-pjを示します。

■ NK-70M-V-PJ, NK-70-V-PJ 定格総荷重表(2)

(単位:ton)

アウトリガ中間張出 (全周) アウトリガ最大張出 (前方)									
ナム長さ 作業半径(m)	アウトリガ中間張出 (全周)				ナム+ツバ 長さ 作業半径(m)	アウトリガ最大張出 (前方)			
	6.6m	11.45m	16.3m	6.6~16.3m +ルスタシーブ		6.6m +0.35m	11.45m +2.75m	16.3m +5.2m	
2.0	4.9(7.00)			1.25	2.0	1.25			
2.5	4.9(7.00)	4.90		1.25	3.0	1.25	1.25		
3.0	4.9(5.20)	4.90	3.85	1.25	4.0	1.25	1.25		
3.5	3.80	3.75	3.75	1.25	5.0	1.25	1.25	1.25	
4.0	2.90	2.90	2.90	1.25	5.5	1.25	1.25	1.25	
4.5	2.30	2.35	2.35	1.25	6.0	1.17	1.25	1.25	
5.0	1.90	1.95	1.95	1.25	6.4	1.04	1.25	1.25	
5.5	1.55	1.60	1.60	1.25	7.0		1.06	1.12	
6.0	1.25	1.35	1.35	1.17	8.0		0.79	0.84	
7.0		0.95	0.95	0.87	9.0		0.59	0.64	
8.0		0.70	0.70	0.62	10.0		0.44	0.49	
9.0		0.50	0.50	0.42	標準フック	1.25tフック			
10.0		0.35	0.35	0.27	フック重量	20kg			
標準フック	4.9tフック(7.0tフック)			1.25tフック	巻掛本数	1			
フック重量	65kg			20kg	危険角度		37°	59°	
巻掛本数	4 (6)			1					
危険角度			47°	47°					

(注) ( )内数値はNK-70-V-PJを示します。

## 【注 意】

1. 定格総荷重は、水平堅土上において本機の保証できる最大荷重を示しており、フックその他のつり具等の重量を含んだ値です。なお  部分は機械の強度によって定められ、他は機械の安定によって定められています。
2. 作業半径はブーム及びジブのたわみを含んだ実際の値に基づいていますので必ず作業半径を基準として作業を行ってください。
3. 定格総荷重（ブーム長さ：6.6m-16.3m）は着脱式ルースタシーブを車輻側に格納した状態の値です。着脱式ルースタシーブをジブに装着した状態で主ブームの作業を行う場合、実際につり上げられる荷重は定格総荷重より主ブームのつり具等のほかに50kgを差し引いてください。
4. ジブセットの状態（4段同時伸縮の状態）で主ブームの作業を行う場合、実際につり上げられる荷重は定格総荷重より主ブームのつり具等のほかに300kgを差し引いてください。
5. ブームを危険角度以下にしますと無負荷でも転倒しますので充分注意してください。
6. 4本のアウトリガが最大張出以外は定格総荷重表の中間張出の荷重で作業を行ってください。中間張出以下の状態では、つり上げはできません。
7. ブーム及びジブの長さが規定の長さを超えた場合は、定格総荷重表の小さい方の荷重で作業を行ってください。
8. フロントジャッキ格納時には前方つり上げは、側方・後方つり上げより低い性能になっています。側方つりから前方つりに入る場合には過荷重になる恐れがありますので充分注意して作業を行ってください。
9. フックの最小巻掛本数はワイヤロープ1本当たり1250kgを超えない範囲で決定しますが、各ブーム長さに対する標準フック巻掛本数は表の通りです。
10. 自由降下は原則としてフックのみを降下するときに使用しますが、やむをえずつり荷を自由降下する場合には定格総荷重の20%までを限度として急激なブレーキ操作は絶対にさけてください。
11. 定格総荷重を超える作業を行った場合及び正しい使い方を行わなかった場合は転倒または破損します。この場合本機の保証はいたしません。